



第6回「第三セクター等のあり方に関する研究会」
第三セクターの参考事例

2014年2月6日

株式会社日本総合研究所

藤波 匠

説明内容

1.西粟倉・森の学校（岡山県）

森林の有効活用と高付加価値化を図る第三セクター

2.四万十ドラマ（高知県）

民間企業となった元第三セクター

西栗倉村

人口約1550人

厚生労働省の人口予測
2040年 人口約1000人
高齢化率65%





恋山形

智頭町

穂見山

智頭南

山郷

智頭急行智頭線

373

沖ノ山

大茅
スキ一場

右手峠

あわくら
温泉

英田郡
西栗倉村

駒の尾山

72

後山

笛石山

袴ヶ仙

西栗倉

西栗倉
村役場

西栗倉

429

556

高鉢山

出典: Google map

15

智頭急行について（簡単に）

- 80年代 国鉄による建設、半ばで断念
- 86年 第三セクター智頭鉄道株式会社設立
- 94年 智頭線開業
- 06年 三セク鉄道として初の配当実施

- 収益源は、スーパーはくと（京都ー鳥取・倉吉）
- スーパーいなばと合わせ利用者は、100万人／年
- 大都市間輸送の空白地域であったが故の成功例
- 地元住民の移動の足としての普通列車中心では、経営難は必至

なごみの空間
特急スーパーはくと

大阪ー鳥取間 約2時間30分



2008年度 グッドデザイン賞受賞

智頭急行ホームページより

西栗倉・森の学校

2008年 百年の森林構想 旗揚げ

前西栗倉村長 道上正寿

約50年前に、子や孫のためにと、木を植えた人々の想い。
その想いを大切にして、立派な百年の森林に育て上げていく。
そのためにあと50年、村ぐるみで挑戦を続けようと決意しました。

2009年 株式会社 西栗倉・森の学校 立ち上げ

なぜ百年の森か？

原木出荷・下請け地域





エンドウ
延東義太さん

甚太郎さん生まれる 1871

明治4年 魔落置県

植林 1927

昭和2年

甚太郎さん亡くなる 1957

甚太郎さん 55歳

兄の通さん亡くなる (1954)

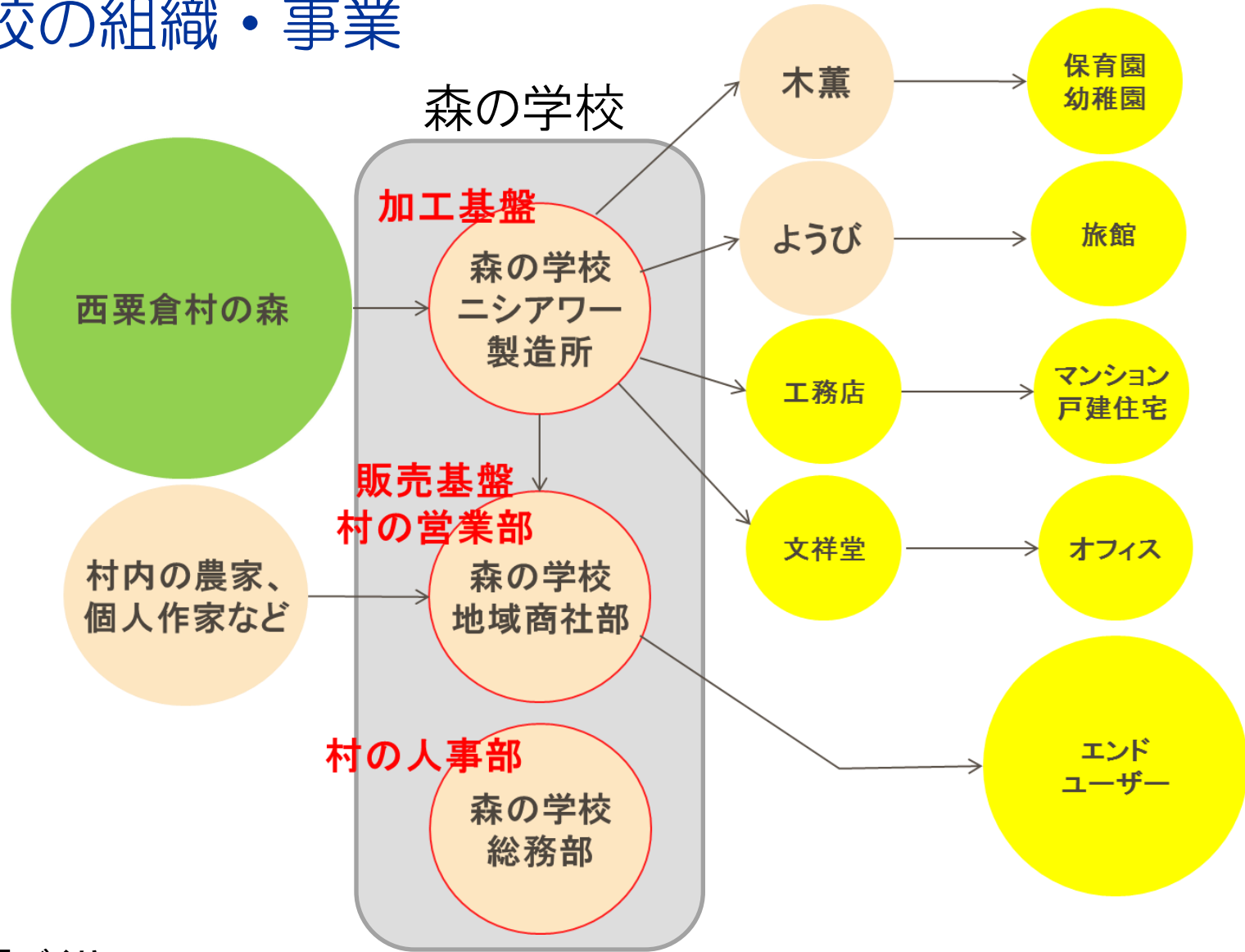
義太さん 17歳で山主になる

トリイテーブルとして出荷 2012



1800×850×710
28.5万円

森の学校の組織・事業



ニシアワー製造所(2010年)





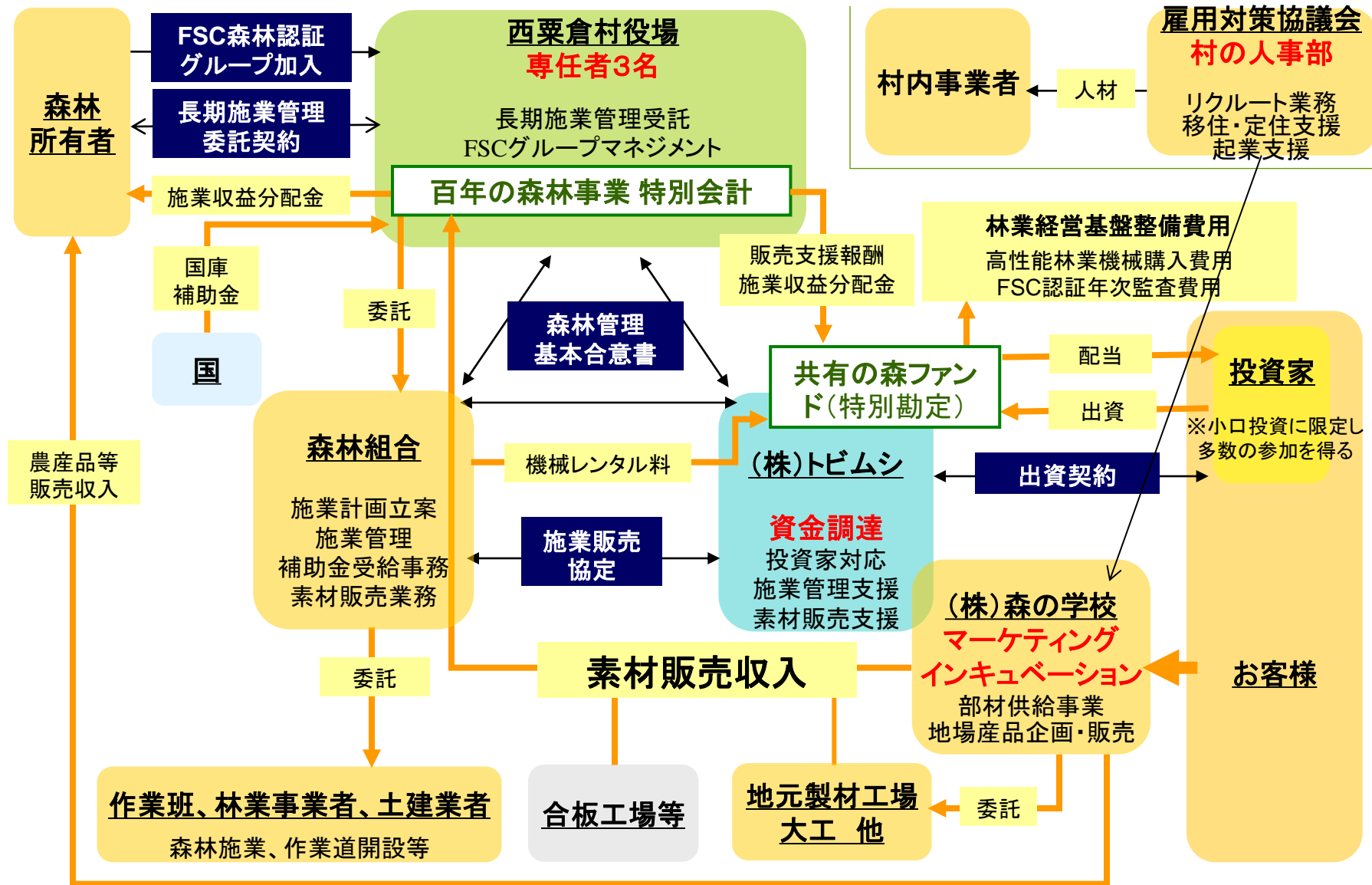
木のオフィス



Ryokan







(株)森の学校について

資本金：131,890千円

(株)トビムシ 7,270株 (66.8%)

(株)アイワホーム 2,300株 (21.1%)

西粟倉村役場 1,100株 (10.1%)

西粟倉村民 (76名) 219株 (2.0%)

何回かに分けて第三者割当増資

2012年は、▲8,000万円

2013年は、上期で▲1600万円、下期で+600万円

2014年は、+1,500万円見込み

2012年は先行投資のため赤字拡大。

リストラと借り入れで対応。

(株)トビムシについて

純粋な民間企業

地域資産としての森林に光をあて、持続可能な地域再生を目指し、森林価値を高める多角的な事業を展開。

森林の施業管理、森林資産（素材）の生産・加工・販売等を自ら行うとともに、製材会社等に対する経営支援、地域ブランディングおよびマーケティングの企画・実施を支援。

「西粟倉・共有の森ファンド」ではトビムシの取り組みに共感した400名以上の個人投資家から4千万円超の出資を集め、定期的な投資家限定ツアーや地域産品の優待販売などを実施。

地域に不可欠な機能を提供

- 百年の森構想に沿って、地域資源を活用し、産業を興して、雇用を作る
- 公共の出資比率が低いこともあり、運営はきわめて民間的。
- 製材・加工所を設置し、直接域内外の需要家に販売。
- 地域の木材の付加価値向上に貢献。
- 若者の移住も多く、インキュベーションの場にも。

高知県 四万十ドラマ

1994年 第三セクターとして設立（大正町、十和村、西土佐村の三町村）

- 地域資源を生かした商品開発のためを目的（地域おこしの「なんでも屋」）
- 初代社長は西土佐村村長
- 公募で採用した社員1号が、現社長の畦地氏

1999年 補助金なしでの黒字化

2005年 出資自治体から株を買い戻し、民営化

- 経営上の意思決定を早くするため
- 出資3団体とは異なる枠組みで市町村合併の動き
- 買い取った株式は地域住民に売却
- 「じゅうみん株式会社」と名乗っている



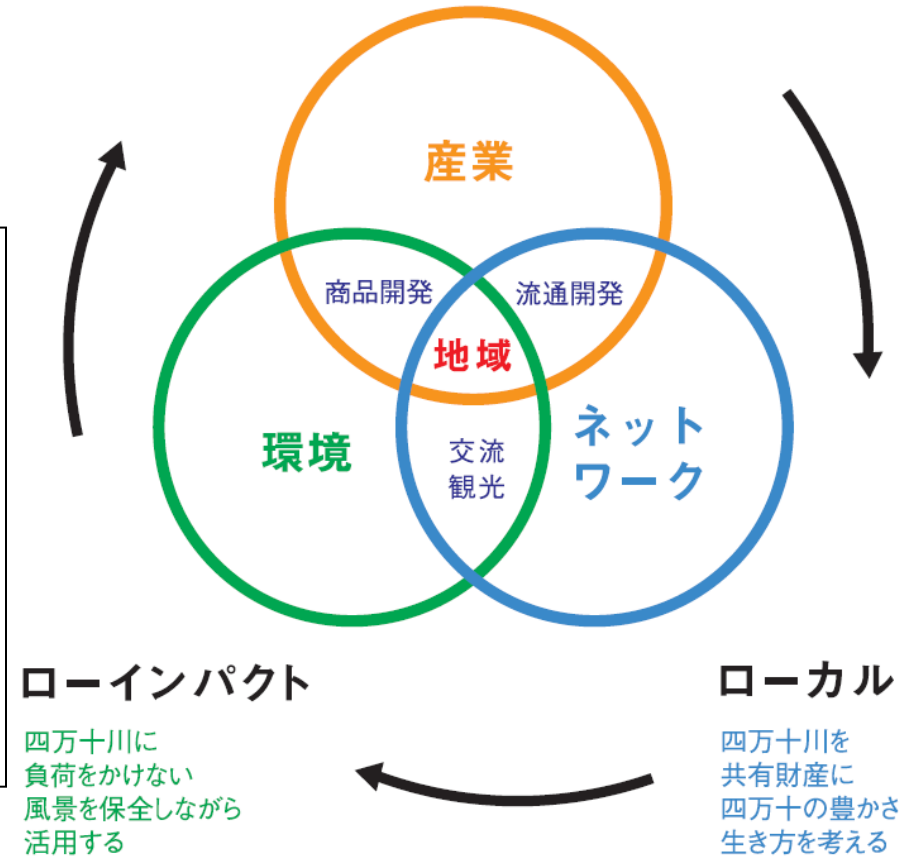
四万十川に負担をかけないものづくり

- 地域密着による地域資源の展開
昔の技術や智恵を残し、新しい商品開発
四万十のノウハウ
- 環境循環ビジネス
新聞バッグ等の展開、
体験プログラムの作成
- 住民が活躍できる人材育成
地元の方が活躍できる産業育成



ローテク

地元の素材・技術・知恵
第1～1.5次産業にこだわる



ローインパクト

四万十川に
負担をかけない
風景を保全しながら
活用する

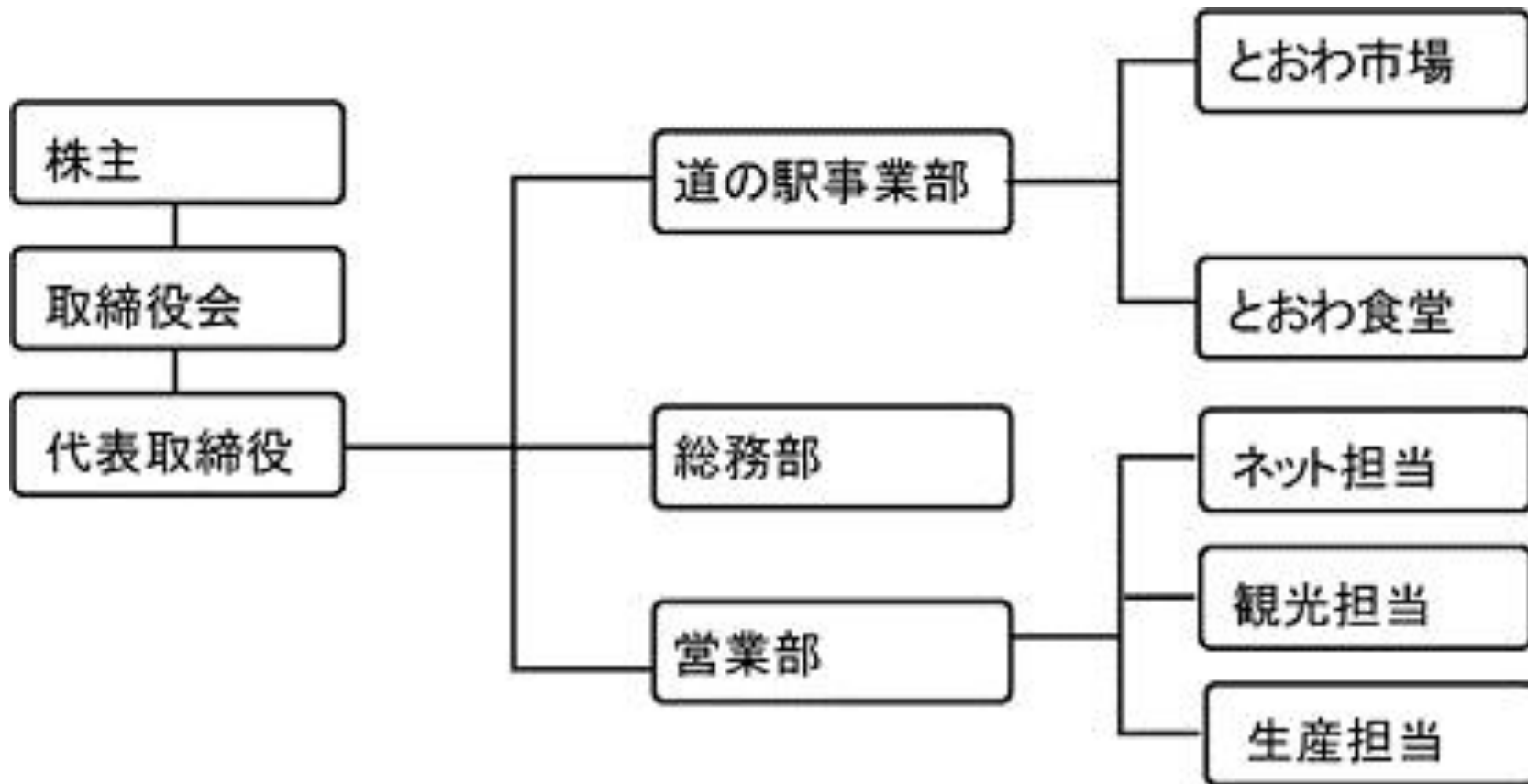
ローカル

四万十川を
共有財産に
四万十の豊かさ
生き方を考える

ローフード・ローライフ

四万十川に負担をかけない
たべもの・生き方

四万十ドラマの組織図

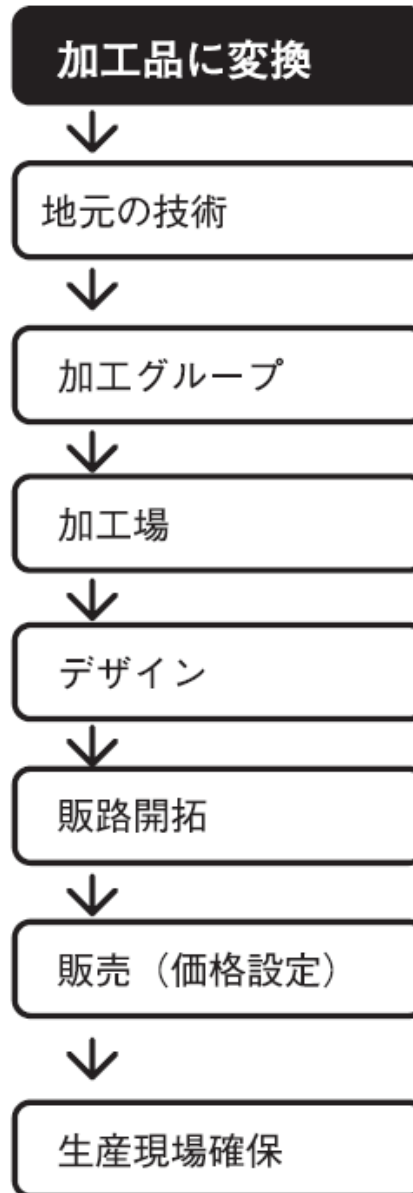


これまでは
【原料提供のみ】



生産者は自分のつくったものが
どんなふうに使われているか
わからない

これからは
【生産から販売までを生産者が行う】

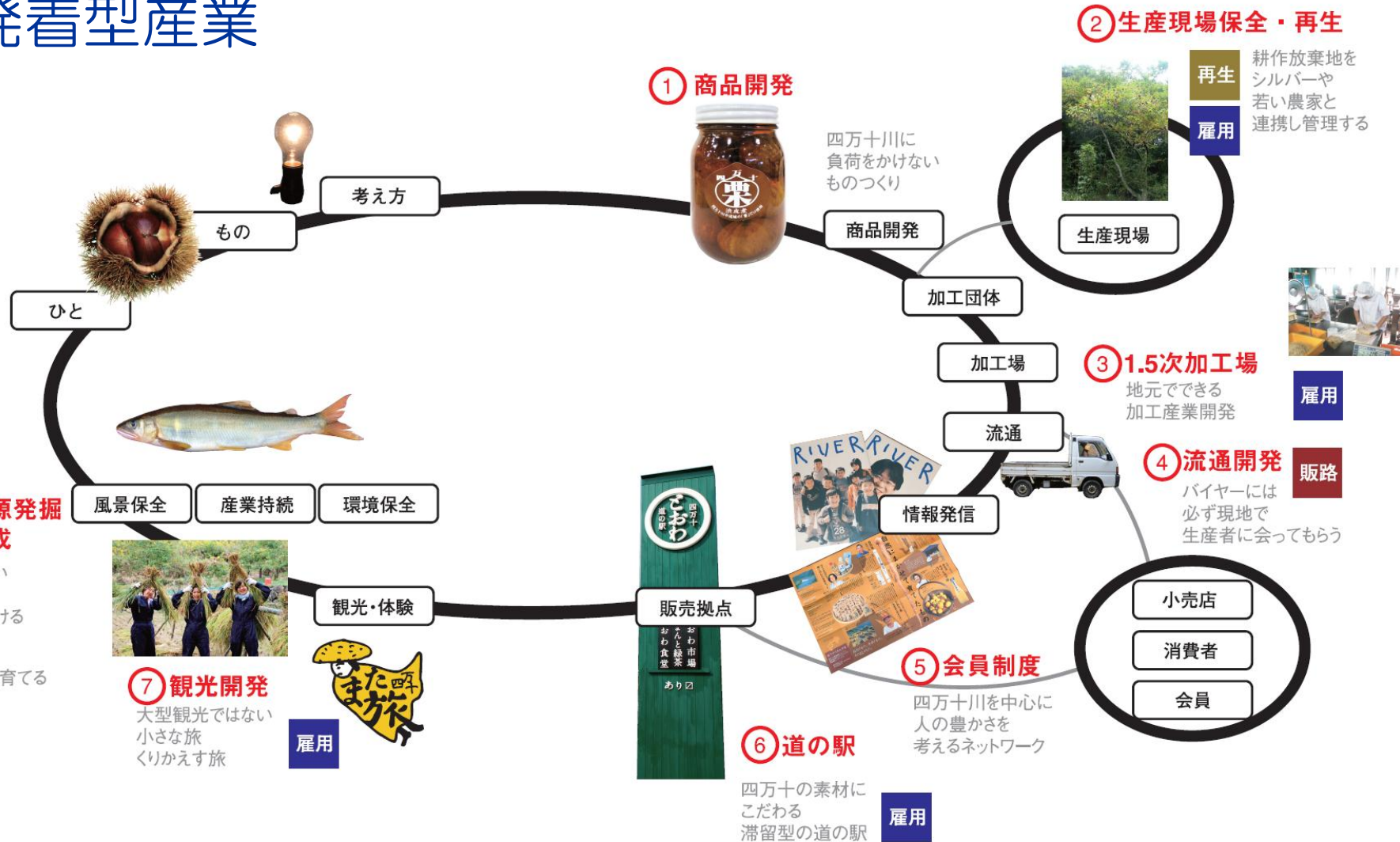


生産者自身が知恵を
使い、組織をつくり商品
を育てる。

自分たちでできる加工
は自分たちで行い価格
の設定をする。

販売にでかけることで
現場のや顧客の実情を
知りさらなる商品のこ向
上につながる。

地元発着型産業



道の駅事業と体験メニュー

2007年オープン、集客15万人、売上1.3億円超



地産地消のとれたて野菜
地元の手づくり加工品
十和オリジナル商品の市場



四万十の季節と
天然素材を味わう
風景食堂

復刻製造
四万十の
地紅茶



道の駅のために開発された商品



天然鮎の塩焼き



天然うな井



【体験メニュー】

四万十川で屋形船&カヌー！！

四万十下流域でフロートラフト！！

四万十川水中探検隊！！

四万十川フリークルーズ

川エビ伝統漁法「ころばし」

川エビ伝統漁法「エビたま」

四万十伝統のうなぎ漁

四万十川支流で川遊び

高級食材ツガニを捕まえる

大正町市場の新名物「久礼井」

川漁師と作る四万十川の漁師飯

川漁師と作る四万十川の漁師飯ミニ

椎茸収穫&販売体験

新聞バック作り体験

マイ箸作り体験

お茶摘み体験とお茶の入れ方

紅茶の茶摘み体験と紅茶の入れ方

鮎焼きと沈下橋



プロジェクトのロゴマーク



地域間・団体間連携で新しいビジネスを



【学ぶ】

株式会社いろどりの
「研修システム」

- 全国各地からたくさんの人を集める研修システムを学ぶ
- 「はっぱビジネス」のシステム構築の細部を学ぶ
- キーマンである横石氏の「考え方」「哲学」「手法」の細部を学ぶ

+



【知る】【つくる】

四万十また旅プロジェクトの
「体験型観光システム」

- 地域の日常体験を観光化
- 体験を持って地域に共感していくファンづくり
- 地元の人がガイド役の人材育成

=



【学ぶ】【知る】【つくる】

株式会社四万十ドラマの
「体験型研修システム」

- 研修参加者を「観光客」としてとらえる研修
- 実際に現場で体験しながら理解する研修システム
- 短時間／半日／一泊二日のコース設置

四万十ドラマ成功の秘訣

- 四万十ドラマは、三セク民営化の事例
- 民間企業となり、さらなる事業拡大に向けたアイデア
- 「こんなものが・・・」が、意外と売れる
- 誘致ではなく、有るもの（地域資源）で勝負